

クアラルンプールにて

西谷 昭比古

2022年に日本脱出を图った長男一家の生活状況、孫の学校環境、都市の様子など、どんなかなあ？と思っていたところ「来てみたら」と誘いがあり、クアラルンプールへ行ってみた。

都市内はじめ郊外のいたる所にタワーマンションがある。一家の住まいも38階建ての17階である。日本で言う2LDKであるが、ダイニングリビングは20畳ぐらいで我が家より広く、天井が高い。そこに天井扇が2基設置されており、昼間これが作動・回転すればエアコンは不要である。エアコンが不要なのは、どうやら都市の構造にありそうだ。「緑」が多い。公園、街路樹、建築物各階、屋上と多くの場所、場面に「緑」がある。そのためか「猛暑日」にはならないという。

これまで「KLタワー」と「ペトロナス・ツイン・タワー」が現代建築物の象徴だった。2023年の建築された世界で2番目の高さの「ムルデカ118」は、未だ内覧できないため「KLタワー」に登ってみた。このタワーのユニークさは、屋根がなく、高さ1.4mの強化ガラスの手摺のみの展望階の回廊の「スカイデッキ」(地上300m)と強化ガラスで造られた出窓ならぬ出床の「スカイボックス」である。

マレーシアはイスラム文化の影響が大なのか夕食時でもアルコールを飲む人は少ない。今回の訪問でのレストランのメニューには酒類はビールしかなかった。スーパーには日本酒、ウィスキーは売られているが、関税を高く設定しているためか日本より3倍程度、高くなっていた。生活の中でアルコール類が継子扱いされていると痛感した思いである。



左の尖頭のあるガラス張りの建築物が「ムルデカ118」

都市内には緑地も多い



建築物の各階緑化



齢を重ねるほど高所恐怖症が募る



尖頭のある白っぽいのがペトロナス・ツイン・タワー
ツイン・タワー背景の赤いスカイボックスと
ムルデカ118背景の青いスカイボックス